

経営課題3

【都市の魅力と成長】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

・都市のストック、ポテンシャルを活用し、だれもが住み・働き・訪れたい魅力ある都市空間を創出する。また、市が持つ水・環境の技術を活用し、地域経済の活性化につなげる。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

■賑わい創出・観光拠点整備による都市魅力の向上
・大阪のシンボル・ストリートとしての風格、美しいイチョウ並木の御堂筋、歴史的建築物が数多く立地する船場地区、大規模商業施設の開業など周辺環境の変化が著しい「天王寺・阿倍野エリア」の核となる天王寺動物園や天王寺公園など都市魅力に資するストック、ポテンシャルを有する都市基盤が存在している。
・うめきた2期区域の開発については、国・府・市・経済界が一丸となり決定された、「うめきた2期区域まちづくりの方針」の中で、みどりや中核機能の考え方をはじめとしたまちづくりの基本的な考え方が示され、早期の実現が求められている。

■安全で快適な自転車利用環境の創出
・市域は自転車が利用しやすい平坦な地形が多く、買物や通勤・通学などの日常利用だけでなく、観光や健康の観点からの利用ニーズも高まっているが、その一方で市内交通事故件数のうち自転車関連の割合が約40%と高く、全国平均の約2倍となっている。

■良好な都市環境の創出
・雨天時に下水道の吐き口から雨水とともに汚れの一部が直接放流され、水質汚濁の原因の一つとなっている。（合流式下水道の改善率 27年度：53.5%）
・本市の身近な緑について満足している市民の割合が半数に達していない。（27年度：46.8%）
・水と光のまちづくり推進会議では、都心を流れる水の回廊を船が行き交い、内外の人々が水辺に集い憩う世界に類をみない水都を水都大阪の将来像としており、実現のために必要な河川の水環境整備が求められている。
・水の回廊のうち道頓堀川や中之島周辺では賑わいが着実に創出されているが、回廊全体では単調で魅力に欠く区間が存在しており、舟運の回遊性に乏しい状況にある。
（27年度・太左衛門橋船着場（道頓堀川）の発着回数：11,580回、本町橋船着場（東横堀川）の発着回数：202回）

■水環境技術の海外展開
・国際会議等での報告、海外研修員受け入れ、現地調査等の実績を着実に積み上げているものの、現地での事業化につながっていない。

要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞

■賑わい創出・観光拠点整備による都市魅力の向上
・御堂筋の歩道内を自転車と歩行者が錯綜し、歩行者が歩きにくい状況となっている。また、電線等によるまちなみ景観の阻害や既存施設の老朽化など、都市魅力に資するストック、ポテンシャルが十分に活かされていない。
・「うめきた2期区域まちづくりの方針」に基づくまちづくりを実現するための民間開発に先立って、JR東海道線地下化や新駅設置、公園整備など、まちづくりの前提となる基盤整備事業を実施することが必要となっている。

■安全で快適な自転車利用環境の創出
・自転車関連事故について、全国的に自転車の車道左側通行ルールの徹底が求められるなか、歩道を通行する自転車が多数残されていることが大きな要因となっている。

■良好な都市環境の創出
・合流式下水道から放流される汚濁物を削減させるための施設整備がいまだ十分でない。
・成熟した市街地において緑を増やしていくことが非常に難しい状況になっている。
・東横堀川や西道頓堀川等では堤防が高く、日常的に水辺に近づけない構造となっており、また、舟運利用者にとって単調で魅力に欠けた河川となっている。特に東横堀川の場合、沿川に開放された公園があるものの、堤防が老朽化しているうえ、全区間を阪神高速道路が上空占用し、閉鎖的で親水性に乏しいことから、水辺の魅力が活かしきれていない状況にある。

■水環境技術の海外展開
・海外での受注を狙う民間企業は、要素技術のレベルは極めて高いが、日本において主に自治体が行っている維持・運営に関するノウハウが少ないことが現地での事業化につながっていない原因である。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

■賑わい創出・観光拠点整備による都市魅力の向上
・御堂筋の道路空間再編に向けた取り組み、歴史的建築物の周辺道路の景観整備や大阪を代表する公園の老朽化施設の改修、民間活力の活用などにより、それぞれの施設が持つストック、ポテンシャルを十分に活かし、だれもが住み・働き・訪れたい魅力・環境を創造していく必要がある。
・うめきた2期区域の民間開発によるまちづくりの前提となる基盤整備事業を着実に推進し、早期のまちびらきにつなげる必要がある。

■安全で快適な自転車利用環境の創出
・まず、安全第一の観点から、自転車通行空間の確保や交通ルール周知に加えて、都市魅力向上に資する快適で楽しい自転車利用環境を創出していく必要がある。

■良好な都市環境の創出
・分流式下水道並みの汚濁負荷放流量をめざし、合流式下水道改善のための施設等の整備を進める。
・新たな緑を創出するとともに全ての緑を良好に保全・活用していくことで、うるおいのある良好な都市環境の形成を図る必要がある。
・水と光のまちづくり推進会議がめざす将来像の実現に寄与し、水辺魅力の向上や舟運の活性化につながるよう、東横堀川や西道頓堀川等において、多様な水辺関係者と連携しながら、民間ニーズに応じた環境整備や民間活力による多彩な魅力空間の形成の促進に取り組む必要がある。

■水環境技術の海外展開
・官民が連携し、市が持つ水・環境の技術、ノウハウをさらに活用するなど、相互の強みを活かしていくことにより、事業化につなげる必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

賑わい創出・観光拠点整備による都市魅力の向上について、不明地中構造物撤去の長期化や周辺事業者との協議に伴う施工時計画の検討継続等により一部の具体的取組において目標に満たないものがあったが、戦略ごとの取組は概ね順調に進捗している。天王寺動物公園、御堂筋については、引き続きそれぞれの施設が持つストック、ポテンシャルを十分に活かした整備を進めるものとし、うめきた2期区域基盤整備については早期のまちびらきをめざし事業を推進していく。
また、安全で快適な自転車利用環境の創出、良好な都市環境の創出、水環境技術の海外展開については、めざす状態に向けて着実に事業を進めており、引き続き各めざす状態の達成に向けて事業を推進する。

計画	めざす状態＜概ね3～5年間で念頭に設定＞		戦略＜中期的な取組の方向性＞	
	・御堂筋やその周辺エリアにある歴史的建築物といったストック、ポテンシャルについて、空間再編や周辺景観と調和した道路整備などの手法で活用することにより、都市魅力の向上に資する道路空間などを形成する。 ・天王寺動物園について、大都市大阪に相応しい魅力あふれる動物園とする徹底した改革を行い、あわせて動物園を核とした天王寺・阿倍野エリアの魅力向上に寄与する。 ・うめきた2期区域において、JR東海道線支線により分断された市街地の一体化による都市の活性化を図るため、JR東海道線支線をうめきた地区中央部に移設・地下化する。		・[グランドデザイン・大阪]において、御堂筋の将来像は「車重視から人重視の道路へ」という方向性が示されており、道路空間再編の検討に取り組むとともに、着地型観光拠点づくりに資する船場地区の歴史的・文化的な建築資源を活かすため無電柱化、周辺景観と調和した道路整備を実施する。 ・天王寺動物園の老朽獣舎等のリニューアルを進めるとともに、天王寺公園の回遊性向上や公園・動物園へのアクセス向上に取り組み、天王寺・阿倍野エリアの魅力向上を推進していく。 ・関連する基盤整備事業と相互に連携してJR東海道線支線の地下化を計画的に実施する。	
自己評価	アウトカム＜めざす状態を数値化した指標＞			
	※重点目標(天王寺動物園)			
	・整備後の御堂筋を通行することに満足している歩行者の割合(25年度45%→30年度 55%)			
	・天王寺動物園の入園者数(25年度116万人)を31年度に175万人とする。			
	・JR東海道線支線の大阪駅北付近約2.4km部分を34年度までに地下化する。			
自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す			
	アウトカムの達成状況		前年度	個別 全体
	【御堂筋・周辺エリアの魅力向上】 ・未測定(御堂筋完成80周年記念事業、モデル区間の整備効果検証、歴史・文化的なまちなみ事業に伴う道路整備・詳細設計を実施した。)		—	A
	【天王寺・阿倍野エリアの魅力向上】 平成29年度天王寺動物園入園者数:174万人		167万人	A
	【うめだエリアの魅力向上(JR東海道線支線地下化事業)】 ・未測定(地下化工事を推進した。)		—	A
自己評価			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	A:順調 B:順調でない			
自己評価	戦略の進捗状況	b	—	
	a:順調 b:順調でない			

27決算額 141百万 円 28予算額 544百万 円 29予算額 419百万 円

計画	取組内容		業績目標（中間アウトカム）	
	(御堂筋完成80周年記念事業) ・御堂筋完成80周年を契機として、御堂筋が果たしてきた役割・功績を振り返るとともに、人中心のみちへと空間再編をめざす今後の御堂筋のあり方を展望し、官民連携によるまちづくりの推進につなげていくため、「御堂筋完成80周年記念事業」を実施する。 ・御堂筋完成80周年記念シンポジウムやワークショップを開催し、将来像やビジョンを策定する。 (御堂筋の活性化) ・大阪都心の顔としての魅力・集客力を活かすべく、難波交差点以南東側区間でのモデル整備完了に合わせた整備効果の検証を実施する。 (歴史・文化的なまちなみ事業) ・船場地区において、歴史的・文化的な建築資源を活かした着地型観光拠点づくりに資する歴史的建築物周辺の無電柱化、周辺景観と調和した道路整備を実施する。		(御堂筋完成80周年記念事業) ・「御堂筋完成80周年記念事業」に参画した民間企業・団体数:14団体 【撤退基準】 ・「御堂筋完成80周年記念事業」に参画した民間企業・団体数が10団体未満の場合、事業撤退または再構築を図る。 (御堂筋の活性化) ・御堂筋の難波～難波西口間東側モデル整備後の検証を実施する。 【撤退基準】 ・道路空間を検討していく中で、御堂筋の道路交通に大きな障害となることが判明した場合や整備に関して地域との合意が得られない場合は事業を再構築する。 (歴史・文化的なまちなみ事業) ・船場地区において2箇所の無電柱化及び周辺景観と調和した道路整備工事を実施し、1箇所の設計を実施する。 【撤退基準】 ・船場地区の無電柱化、周辺景観と調和した道路整備について地域から無電柱化に必要な地上機器の設置場所への協力が得られない場合は事業を再構築する。	
			前年度までの実績	
			・御堂筋において側道を閉じた際の交通影響等を検証する社会実験の実施(25年度) ・船場地区において1箇所の道路整備工事を完了させ、2箇所の設計を実施し、無電柱化工事に着手(27年度) ・御堂筋の側道を閉鎖し、道路空間を活用した賑わい創出を行う社会実験を実施(伏見3交差点～平野町3交差点)(26年度) ・御堂筋の道路空間再編についてパブリックコメントを実施(26年度) ・御堂筋の難波～難波西口間東側でのモデル整備を実施(27～28年度)	
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成		—	
	戦略に対する取組の有効性	—	○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)	
自己評価	取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	(御堂筋完成80周年記念事業) ・「御堂筋完成80周年記念事業」を実施 ・御堂筋完成80周年記念シンポジウムやワークショップを開催し、御堂筋将来ビジョンを策定 ・「御堂筋完成80周年記念事業」に参画した民間企業・団体数:112団体 (御堂筋の活性化) ・御堂筋の難波～難波西口間東側モデル整備後の検証を実施し、歩行者の安全性向上が確認できた。 (歴史・文化的なまちなみ事業) ・無電柱化、周辺景観と調和した道路整備を実施:2箇所 ・詳細設計を実施:1箇所		—	
	業績目標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	取組実績どおり	① (i)		
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成		—	
	戦略に対する取組の有効性	○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)	

具体的取組3-1-2

【天王寺・阿倍野エリアの魅力向上】★

		27決算額	631百万 円	28予算額	211百万 円	29予算額	389百万 円
計 画	取組内容			業績目標（中間アウトカム）			
	サービス向上へのあくなき挑戦のため、天王寺動物園の徹底したサービス改善を行い、大都市大阪に相応しい魅力あふれる動物園とするためにソフト、ハード両面での計画的な改革を行う。 (29年度の取組内容) ・老朽獣舎等のリニューアル ・顧客視点からの魅力向上策の展開 ・社会教育機能の向上 ・飼育管理機能の向上 ・コレクション強化 ・トイレ、園路整備 ・公園の回遊性向上 ・公園・動物園へのアクセス向上 等			・ナイトZOOの継続実施や天王寺動物園101計画に基づく29年度の取組みを着実に実行し、動物園入園者数を26年度(136万人)より34万人増の入園者とする。 【撤退基準】 ・動物園入園者数136万人(26年度入園者数)に達しない場合は事業を再構築する。			
				前年度までの実績			
				・観光バス駐車場の整備 ・動物園内園路等の一部改修 ・ナイトZOOの実施 ・CS向上の取組 ・てんしばゲートの整備 ・ユニフォーム作成 ・天王寺動物園101計画策定 ・ホームページ作成			
中間振り返り	業績目標の達成状況		① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須			
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成		—				
	戦略に対する取組の有効性		—	○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)			
自己評価	取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須			
	・年間パスポート導入 ・ナイトZOOの継続実施(夏・秋・春に計18日間実施) ・老朽化施設改修(アフリカサバンナゾーン、アジアの熱帯雨林ゾーン) ・公園の回遊性向上 等			—			
	業績目標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須			
	平成29年度天王寺動物園入園者数:174万人		① (i)	—			
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成		—				
戦略に対する取組の有効性		○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)				

具体的取組3-1-3

【うめだエリアの魅力向上】

		27決算額	550百万 円	28予算額	3,014百万 円	29予算額	3,727百万 円
計 画	取組内容			業績目標（中間アウトカム）			
	（JR東海道線支線地下化事業） ・JR東海道線支線地下化事業について、関連する基盤整備事業との工程調整等を実施し、円滑な事業推進を図る。 《大阪駅前地下道東広場の防災・減災対策》（再掲） ・大阪駅前地下道（東広場）の大規模改修にあわせてリニューアルに伴う設計を実施する。			（JR東海道線支線地下化事業） ・工事進捗率：約26%【改定履歴あり】 【撤退基準】（別途決定済） 《大阪駅前地下道東広場の防災・減災対策》 ・設計の完了 【撤退基準】（複数年事業） 前年度までの実績 （JR東海道線支線地下化事業） ・実施設計の実施（26年度～） ・工事進捗率：約0%（27年度） 《大阪駅前地下道東広場の防災・減災対策》 平成29年度新規事業			
中 間 振 返 り	業績目標の達成状況		① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須			
	①：目標達成（見込）（ i ）取組は予定どおり進捗（ ii ）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（ i ）取組は予定どおり進捗（ ii ）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成		—				
	戦略に対する取組の有効性		—	○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定（未測定）			
自 己 評 価	取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須			
	（JR東海道線支線地下化事業） 地下化工事を推進した。 （大阪駅前地下道東広場の防災・減災対策） ・建築・設備の概略設計完了			（JR東海道線支線地下化事業） 工事着手に際し、不明地中構造物の撤去に期間を要したことから、一部の工事に遅れが生じた。 （大阪駅前地下道東広場の防災・減災対策） ・全体系の建築設備設計は完了させたが、周辺事業者と事業協力を含めた協議の結果、施工方針について一部合意が得られなかったため、施工時計画を継続して検討することとなった。			
	業績目標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須			
	（JR東海道線支線地下化事業） 工事進捗率：約25% （大阪駅前地下道東広場の防災・減災対策） 取組実績どおり		② (ii)	（JR東海道線支線地下化事業） 適正な工程管理を実施することにより、工事工程に影響を及ぼさないように努める。 （大阪駅前地下道東広場の防災・減災対策） ・周辺事業者の理解が得られるよう更なる協議を重ね、施工方針を確定させ、施工時の計画・設計を完了させる。			
	①：目標達成（ i ）取組は予定どおり実施（ ii ）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（ i ）取組は予定どおり実施（ ii ）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		○	○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定（未測定）			